



©Yuki Asada

“ごみ”がポップな商品に生まれ変わった！

フィリピンから届いたカラフルなバッグや財布とペンケース。実はこれ、廃棄されたジュースパックでできている。作り手は、同国イロイロ市郊外のごみ投棄場でごみ拾いをして生計を立ててきた人々だ。投棄場の管理主体であるイロイロ市公共サービス局の後押しで誕生した住民組織「UCLA」が、ごみ拾いではない新しい生計手段として10年前に始めた裁縫プロジェクトによって、これらのジュースパック製品が生産されている。

「ジュースパックを一つ一つ洗って、乾かして、縫い合わせてっていう作業は大変なのよ。ただどうまくできたときは“やったね！”という気持ちになるわ」と、UCLAのメンバーは話す。

UCLAに対して多様な支援を行って

るのは、フィリピンを拠点に活動するNGOの「^{ローブ}LOOB」と、それを日本で支える「特定非営利活動法人LOOB JAPAN」だ。LOOBは現地での技術支援やUCLAメンバーの子どもたちへの教育支援に加え、毎月一定額のジュースパック製品を買い取り、LOOB JAPANがそれを日本で販売している。プロジェクト開始当初3,500ペソ（約8,200円）だった買い取り額が今では10倍に増え、メンバーの子どもたちは学校へ行けるようになった。

「もともとジュースが入っていたので、耐水性や強度は抜群です」とLOOB JAPAN代表の小林幸恵さん。「今後は、素材回収から縫製までのノウハウを別の地域で生かしたいんです」。貧困のスパイラルを断ち切るための挑戦は続く。



製品作りに精を出すUCLAの女性。裁縫プロジェクトによって収入を得て、ごみ拾いの生活から脱却した

★ジュースパック製品を3人にプレゼント！
→詳細は38ページへ

★商品はアースデイ東京、グローバルフェスタ JAPAN、アースデイ神戸、ワン・ワールド・フェスティバルなどのイベントの他、以下のオンラインショップからも購入できます。<http://loobinc.cart.fc2.com/>



フィリピン
イロイロ市